慶應義塾醫學部新聞

発行人　草間良輔
編輯人　小林文慶
発行所　慶大醫學部新聞部

病院の復興目ざましい

焼跡に追加建築計畫中

昭和二十年、戰災により過半數の病室を失ひ、大學病院の者養さへ疑はれて居た慶應病院も、新館の新築によつて復興第一攻勢を完了した。即ち昭和二十二年十二月二十五日竣工、工費二千百萬圓、作業人員延約二萬人を要して昨年九月三十日竣工した新館は復興への大いなる歩みと、全慶應の母校愛の象徴とも云へよう。次に復興第二次計畫として現在着手されつゝ在る。その工費三百萬圓、本年三月に竣工の豫定である。

又復興計畫へ拍車をかける如く、學校當局と業者關係者との間に、結核療養所並びに病院を信濃町病院跡に建設し、その經營の全面的慶應病院委託問題の討議が行はれて居る。

若しこの案が實現する暁には、戰災前にもまして大慶應病院の樓閣の夢が實現されることであらう。

新館の竣工により入院患者は戰前と比較して數の上で如何に變化したかと云ふ興味ある統計を見ると、今後病院の發展に必要な反省や努力に何らかの助けになると思ふ。

（病院　戰災前（昭和十六年）

本館三九八、別館二二三　計六六七
戰災後（昭和二十二年、別館二〇〇、三號館（産研）四三、五〇、計二九三
復興後（昭和二十三年）新館二五五、別館二二〇、二號館四三、計四一八

患者數

	一日外來患者	月間入院患者
昭和十七年	七九三	六二八
昭和二十年	四一五	一七二
（十二月二日新館竣工）		
昭和二十一年（十一月）	五一三	二八九
昭和二十二年（十二月、新館入院開始）	五一二	二四三

國家試驗に惜しくも第五位

昨年十二月二十七日各大學及醫專二十六校を交えた第五回醫師國家試驗の合格發表がことだけで、學校當局、受驗者の深刻な反省を要するに千九名合格全國第五位。

一昨年の十一位と比べると慨嘆に堪しないかもしれぬが、同醫師國家試驗の合格發表があつたが、全員合格を豫期されていた本校は一二名中八名合格全國第五位。

時評

再建は建物ばかりではない

荒廢した校舎に雑草が繁るまゝになつて居たつい此の間迄の慶應病院を知るものは今同じその場所に打建てられた新しい病舎に夕方美しく灯のきらめくのを眺める時など、今更感慨なきを得ないであらう。とに角新館の新築により醫學部の復興も新しい發展の端緒にいたと言はねばならない。だが戦爆の傷痕は唯茨蔓に覆した建物のみであつただらうか。國を挙げての戰ひが、みじめな敗戰に終つた時必然疲れ起された社會秩序の混亂と日常生活の頽廃化は各人の精神生活の面に於ても深刻な影響を與へずにはおかなかつた筈である。既成の權威と秩序の崩壊は自由と放縦をはき違へた浅薄な現主主義の解釋と相まち更に生きると言ふ出しのまゝの人間の利己心や我欲に結びつき衣食足らざれば節を知る能はずと道義とか倫理とか言ふ事は時代により移られた故秩序の新言葉に

しか受けられず遂に不親切放縦な生活が現下の經濟的窮乏により理論づけられ正常化され、こうした生活の荒廃の原因をあげて一切かゝる經濟的困窮をもたらした社會の罪に轉じ自らの生活への反省をして顧みない譯の頭潮が（十二月二日新館竣工）昭和二十二年（二月十日）昭和二十三年（十一月、新館入院開始）昭和二十三年（十二月、新館入院開始）五一二　二四三　二八九　四八八　二四一

とうとうとして風靡したのである。殊に強める傾向を強めるの心を抱く患者達に日常養しなければならぬ醫學の部門に於て皆々の日常の言動が疲りを更に悩心に追ひやる原因ではなかつたか。昔の慶應病院と違ひ新しい病舎の建設は、今更感慨なきを得ないであらう。とに角新館の新築により醫學部の復興も新しい發展の端緒にいたと言はねばならない。だが戦爆の傷痕は唯茨蔓に覆した建物のみであつただらうか。國を挙げての戰ひが、みじめな敗戰に終つた時必然疲れ起された社會秩序の混亂と日常生活の頽廃化は各人の精神生活の面に於ても深刻な影響を與へずにはおかなかつた筈である。既成の權威と秩序の崩壊は自由と放縦をはき違へた浅薄な現主主義の解釋と相まち更に生きると言ふ出しのまゝの人間の利己心や我欲に結びつき衣食足らざれば節を知る能はずと道義とか倫理とか言ふ事は時代により移られた故秩序の新言葉に

しか受けられず遂に不親切放縦な生活が現下の經濟的窮乏により理論づけられ正常化され、こうした生活の荒廃の原因をあげて一切かゝる經濟的困窮をもたらした社會の罪に轉じ自らの生活への反省をして顧みない譯の頭潮が（十二月二日新館竣工）昭和二十二年（二月十日）昭和二十三年（十一